

7月17日（金）当社が提供するラジオ番組に PETボトルリサイクル推進協議会 松野専務理事 がご出演

PETボトルリサイクル推進協議会は1993年にPETボトルを製造するメーカーの団体と、PETボトルを飲み物などに使用する飲料メーカーの団体と一緒に設立されました。「もっと皆さんにPETボトルのリサイクルについて知って欲しい」「リサイクルをもっと進めていきたいという思いの下、日々様々な活動を行っています。

この日の番組ではPETボトル推進協議会の取組みのひとつである「PETボトル自主設計ガイドライン」が話題に上りました。



「PETボトル自主設計ガイドライン」とは、PETボトルを衛生的で、使用後のリサイクル適正に優れた容器にするためにボトル・キャップ・ラベルと印刷などについて規定した自主設計ガイドラインです。

まずボトル。PETボトル再生原料のひとつの大きな使い道である繊維製品。これらは自由に着色するため、透明で着色されていない原料でなければいけないことからカラーボトルを禁止しました。これは世界でも例を見ない画期的な基準です。



次は**キャップ**。以前はアルミ製のキャップがありましたが、再生原料にアルミが混ざると、繊維製品の材料となる糸に加工する際、糸が切れる原因になることから禁止となりました。さらにキャップの材質を水よりも軽いプラスチック原料にすることでリサイクルの際、水よりも重いPETボトルと分けることが簡単になりました。



最後に**ラベル**。ミシン目を入れるなどして消費者が飲み終わった後に簡単にはがすことが出来るようにしました。

こうしたメーカーさんたちの自主的な工夫と努力によって、日本国内のPETボトルのリサイクルが支えられています。

「PETボトルが生まれ変わるということ、それによって新しい材料をかなり節約することができ、環境負荷を減らすことにつながります。」と番組を締めくくりました。



左上から文化放送竹内アナ・石川アナ
当社代表取締役古澤・PETボトルリサイクル推進協議会松野専務理事